

寄稿

前教授からの 寄稿



前教授からの寄稿

有機化学教育に携わって

薬化学講座 初代教授 廣田 耕作

愛知学院大学薬学部が今年で設置10周年を迎えるとのこと、誠におめでとうございます。平成18年に岐阜薬科大学を定年退職し、4月に本学薬学部に着任しました。思えば昨年定年を迎え愛知学院大学に在職した7年間は「アッ」という間だったような気がします。

私が担当した科目は、「有機化学(2年生)」、「薬品合成化学(3年生)」、「医薬品開発学(4年生)」、「創薬化学特論(6年生)」の4科目。「有機化学」以外の3科目は、前任大学でも講義していたので問題なかったのですが、有機化学は講義経験がなかったため、当初、私にとって当然だと思っている基本的内容を学生に分かりやすく教えることがいかに難しいか、思い知らされました。本学の学生はよく質問に来てくれ、特に試験が近づくと質問の学生が列をなしました。説明すると「ああ、そういうことだったのですか！ よくわかりました」と笑顔で納得する学生の顔を見たくて、説明に工夫を凝らす毎日でした。

当時、6年制がスタートし、新しい制度として4年次にCBTの導入が決定していました。廣川書店に「CBT対策と演習」のシリーズ発行の企画があり、有機化学の編集を引き受けることになりました。当時はCBTの過去問がないためそのレベルをどの程度にすべきか悩みました。分担執

筆の先生方に基本的な内容に限定し、執筆要領と例題を示して難しくならないようにお願いしました。そのレベルが均一になるように編集時に苦勞したのを思い出します。結果的にこの問題集は、実際のCBTの問題よりやや難しかったのではと思っています。また、数年後、本学で有機化学の講義に使用していた教科書「ソロモンの新有機化学」は多くの薬系大学でも採用されおり、使っている先生方からこの教科書に対応した問題集が欲しいとの声が挙がっていました。同じ出版社の依頼で、この問題集の編集と執筆を分担し、定年間際に「基礎有機化学問題集」として出版されました。

前任大学では有機化学は私の研究対象でしたが、本学では学生に教える教育対象でありました。しかし、有機化学の学ぶ面白さを学生に伝えることに喜びを感じ、楽しく過ごせたと実感しています。また、在職中に医薬品化学関連の教科書(NEW医薬品化学)や問題集(CBT対策と演習医薬品化学)の編集・執筆も分担し、本学では正に教育中心の日々だったと振り返っています。

最後に、愛知学院大学・薬学部の益々のご発展をお祈りいたします。